

1 調査の概要

（１）調査の目的

「町田市高齢社会総合計画」策定に向けた準備として、一般高齢者や要介護認定者の生活実態や意見、要望を把握し、同計画で取組むべき課題を検討するための基礎資料とすることを目的としています。

（２）調査対象

（ア）65歳以上高齢者及び要支援1、2、要介護1、2

市内在住の65歳以上の方で介護保険の要介護3～5の方を除いた方（2011年4月22日現在）から無作為抽出による3,000人

（イ）介護保険認定者（要介護3～5）

要介護3～5の認定を受けている方（2011年4月22日現在）から無作為抽出による1,000人

（３）調査期間

2011年5月16日から2011年5月31日

（４）調査方法

郵送による配布、回収

（５）回収状況

| 対象者 | 配布数 | 有効回収数 | 有効回収率 |
|-----------------------------|--------|--------|-------|
| 65歳以上高齢者及び 要支援1、2、要介護1、2 | 3,000件 | 2,034件 | 67.8% |
| 介護保険認定者（要介護3～5） | 1,000件 | 472件 | 47.2% |

(6) 調査結果の概略

(ア) 65歳以上高齢者及び要支援1、2、要介護1、2

- 一人暮らし高齢者の割合は17.5%。日中独居の方は8割を超える。
- 現在の暮らしの状況を経済的にみて苦しいと感じている人は5割を超える。
- 健康だと感じている人は7割を超える。
- かかりつけ医を持っている人は約8割
- 成人健康診査を受けた人は約6割
- 地域活動等に参加している人は約4割。半数は地域活動に参加していない。
- 相談相手の多くは家族や親族、友人・知人・近所の人。高齢者支援センター（地域包括支援センター）、市役所、民生委員・児童委員などは1割未満。
- 介護保険料について「介護保険サービスが今より少なくなっても、介護保険料を下げしてほしい」という人が約2割
- 高齢者福祉をより充実するために必要だと思うこととして、「介護が必要になったときに安心して利用できるように介護保険制度の充実を推進すること」「家族の介護負担を軽減するための支援制度を充実すること」「生きがいつくり（趣味・娯楽、文化・スポーツ活動、ボランティア等）を推進すること」の順で高い。
- 主に介護をしている人のうち65歳以上の方は約5割

(イ) 介護保険認定者（要介護3～5）

- 一人暮らし高齢者の割合は12.5%。
- 介護が必要になった主な原因として、認知症（アルツハイマー病等）、脳卒中（脳出血・脳梗塞等）、高齢による衰弱、骨折・転倒と続く。
- 今後、どこでどのような生活をしたいについては、「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい」が最も高く約3割。「在宅サービスを受けながら自宅で生活したい」を合わせた在宅での生活を希望している人は約5割。介護者から見た場合は、それぞれ若干低くなる傾向。
- 介護保険サービスに満足している人は5割弱
- 「介護保険サービス」をより充実するために、必要なこととして、介護職員等の人材育成など介護サービスの質の向上、介護予防、緊急時等の短期入所の利用、24時間対応できる介護サービスの導入と続く。
- ケアプランに満足している人は約5割。ケアマネジャーに満足している人は約6割
- 介護サービス事業者の提供するサービスに不満がある場合に、不満や苦情を事業者に訴えることができない人は3割弱
- 高齢者の権利擁護等の相談窓口を全く知らない人は約1割
- 介護保険料について「現在の介護保険サービスを維持できるならば、介護保険料の増額もやむを得ない」という人が約3割
- 介護をしていくうえで、どのようなことに問題になることとして、精神的な疲れやストレス、介護への不安（介護がいつまで続くのかわからない）、肉体的な疲れ、自由な時間がないなどの割合が高い。